

// 特集 // 平成9年度 ブロック研究会活動報告

北海道ブロック

1. ブロックの運営動向

北海道ブロックの会員数は現在 42 名（他に申請中 1 名）であり、他ブロックに比し決して多い員数ではない。今後、実務の第一線で活躍されている方々を中心に、会員数を少しずつ拡大して行くことが大きな課題である。会員の数とともに会員の多様性を図ることによって、研究活動の活性化が可能になると考えられる。

昨年来の北海道経済の動向などを勘案すると、会員拡大の好時期とはいえないが、逆に言うと、実務界の方々が現場で抱えている種々の思いや考えを率直に聞き取れるチャンスとも言える。当面、この点を踏まえて、ブロック研究活動の基盤拡充に注力していきたい。

2. ブロック研究会活動状況

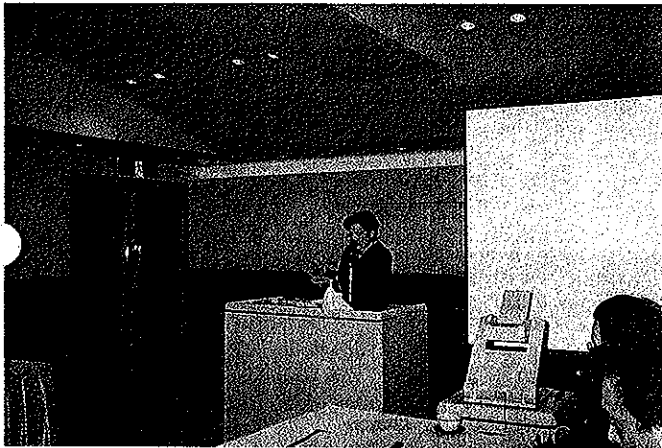
本年度の研究会開催は 1 回にとどまった。

第 24 回研究会の概要

- ・期 日：平成 10 年 1 月 17 日（土）
- ・会 場：札幌ガーデンパレス
- ・出席者：21 名（会員 18 名、非会員 3 名）

(1) 研究報告

- ① 「ビジネス実務教育のあり方についての一考察」
白川 智洋（札幌国際大学短期大学部）



- ② 「インターンシップをいかにとらえるか」
佐々木邦子（国学院短期大学）
- ③ 「実務教育の展開と教育担当者の新しい役割」
北崎 寛（札幌国際大学短期大学部）
- ④ 「イギリス Solihull College の実務教育」
丹治 和典（札幌国際大学短期大学部）

どの報告も「ビジネス実務」の対象領域を拡大しようとする意図が感じられる案件であった。同時に、短期大学の実務教育が直面している課題の所在を示唆する内容でもあった。例えば、佐々木氏の報告は、米国の事例を詳細に捕捉したもので、「インターンシップ」導入に当たって参考になる点が多々含まれていた。また、丹治氏の報告は、教育システムの異なる英国の事例であるが、短期大学の今後の方向性を考える上で、貴重な示唆を与えたといえる。

(2) 研究会運営に関する協議

- ① ブロック運営委員等の委嘱
- ② 会員拡大・研究活動の活性化について
活動の活性化を図る方策として、会員同志が日常的・継続的に共通の課題に取り組む必要性が指摘された。（例えば「実務教育の教授法開発」の共同研究）（北崎 寛記）

関東・東北ブロック

1. ブロックの運営動向

平成 9 年 6 月の全国大会後、ブロック会員へのアンケートを実施し、年 2 回の研究会開催の見直しを検討した。この結果を受けて、ブロック運営委員会では平成 9 年度の活動について、下記の 2 つの小委員会を設置して進めることを決定した。

- ① ブロック研究会企画運営小委員会
・従来の年 2 回開催（各半日）を、年 1 回（1 日）開催として、従来の研究発表とグループ討議の両方を行う。
・小委員会メンバー：○大宮・天野・武田・田辺・藤田・藤本・三村・渡辺鞠子・渡辺裕一（○印リーダー）
- ② 共同研究推進小委員会
・研究テーマを募集し、応募テーマに関心のある方がメンバーとして加わり、テーマ別研究を行う。

- ・小委員会メンバー：○佐藤啓子・倉澤・植竹・中佐古・堀江・池内・古閑・佐藤東九男・高井（○印リーダー）

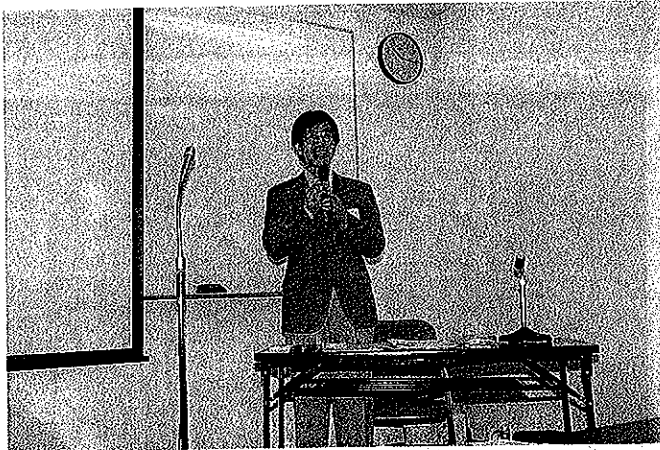
2. 研究会活動

第 25 回ブロック研究会は、平成 10 年 2 月 20 日（金）高崎経済大学の当番校により、東京商工会議所に 81 名の会員が参加して、開催された。

今回の研究会は、全国大会のテーマ「マルチメディアとビジネス実務」を、統一テーマとし、全国大会を前に会員の問題意識を高める場とした。午前中は共同研究の 5 チームからの中間報告、東芝研究開発センター部長・竹林洋一氏の講演「マルチメディアとビジネス実務」。午後は講演をうけ、7 つのグループに分かれて、バス・セッションを行った。テーマは「マルチメディア化に対応した実務教育のあり方」「マルチメディア化の進展による業務への影響」である。コーヒープ

レイクの後、3会場に分かれ、研究発表が行われた。研究発表は下記の通りである。

- ① 三原園子(東京工芸大学女子短期大学部)「レディ教育としての秘書実務教育」
- ② 古閑博美(嘉悦女子短期大学)「ビジネス実務における生活技術の応用」
- ③ 岩田隆一(産能短期大学)「観光業界で求められるビジネス実務能力」
- ④ 伊藤久美子(常磐大学短期大学部)「若者(短大学生)の色彩感覚に関する実態調査」
- ⑤ 小川厚子(産能短期大学)「ビジネスカリキュラムにおける倫理(観)教育の試み」
- ⑥ 武田秀子・大宮智江・岡田小夜子(高崎商科短期大学)「新時代に期待される女性ワーカー像……ビジネス環境と求められる実務能力の変化を中心として」



3. 共同研究活動

共同研究テーマ・チームの決定は次のような流れで行われた。ブロック会員への共同研究テーマ募集(8月)・テーマ決定(9月上旬)・参加者募集(9月中旬)・チームメンバーの決定(9月下旬)・活動開始(10月)・中間報告(翌2月)。

今年度発足のチームは下記の5つである。

- A:「群馬県における企業実態調査」育英短期大学 安藤光俊
B:「ビジネス実務教育における教授法の研究」東京家政学院短期大学 天野恒男
C:「外資系企業の秘書にみる国際秘書業務の変容」共栄学園短期大学 鐘ヶ江弓子
D:「情報関連科目における授業法」東京工芸大学女子短期大学部 佐藤東九男
E:「女性社員と経営組織について」大和証券人事部 南村博二
(風戸修子記)

中部〈東海・北陸〉ブロック

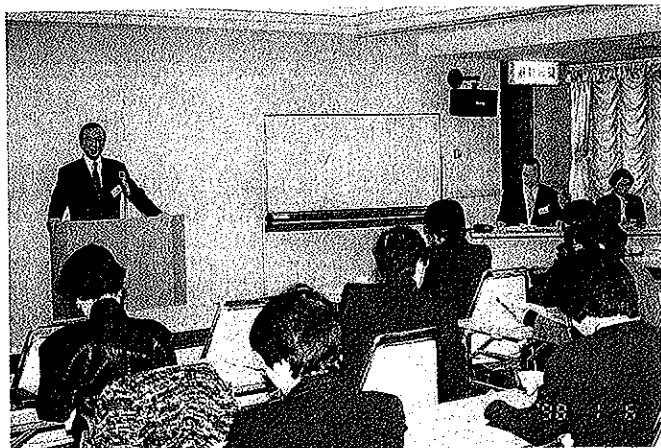
「ブロック運営委員会」の活動

平成9年度の当ブロック研究会における最大の行事は、学会の名称が変更され「日本ビジネス実務学会」となるとして最初の記念すべき全国大会(平成9年6月5日、6日)が名古屋にて開催されたことであった。全国大会の開催にあたっては、愛知女子短期大学の先生方を中心に、約1年間にわたって準備が進められてきた。大会の成功は、ひとえに同短期大学の先生方のご努力のたまものである。

ブロック運営委員会としても、平成8年の秋ごろから全国大会にむけてスケジュールやプログラムの検討、予算案の検討などをおこなってきた。

平成9年度(平成9年5月1日～10年4月31日)の運営委員会の活動は、以下の通りである。

- (1) 平成9年5月11日(於・名古屋)
 - ① 全国大会にむけてのスケジュールの確認
 - ② 全国大会のプログラムの確認
 - ③ 全国大会当日の役割分担の確認
 - ④ その他
- (2) 平成9年6月4日(於・名古屋・全国大会会場)
 - ① 大会プログラム、役割分担などの最終確認と打合せ
 - ② その他



- (3) 平成9年6月6日(於・名古屋・全国大会会場)

- ① 大会終了後のスケジュール打合せ
- ② 反省点の確認など

- (4) 平成10年1月6日(於・金沢・ブロック研究会会場)

- ① ブロック研究会の役割分担
- ② プログラム、時間配分などの確認
- ③ 来年度ブロック研究会の開催について
 - ・日時:平成11年1月6日(水)、7日(木)
 - ・会場:浜松市に決定した。
- ④ 平成9年度全国大会報告(島名正英先生より)
 - ・アンケート集計結果について
 - ・会計報告について
- ⑤ 平成10年全国大会について(報告)
- ⑥ その他

- ・ブロック運営委員の任期について(継続審議とする)
- ・ブロック会報の原稿募集など連絡事項について

- (5) 平成10年3月28日(於・名古屋開催予定)

- ① 学会役員およびブロック運営委員の選出について
- ② その他

(吉田寛治記)

ブロック合同研究会の開催

本年度は、北陸地区でのブロック研究会の開催ということで、平成10年1月6日(火)、7日(木)の両日、金沢市のNTT会館「ラポート兼六」で開催された。一昨年度、そして昨年度のブロック研究会と続いて、今回もまだ松飾りとお屠蘇気分の漂う新年早々の時期ではあったにもかかわらず、30名もの会員の参加であった。

会場は、金沢城に面する兼六園に隣接するまさに明美な環境にあり、前日の雪がうっすらと残る古都の風情を満喫しながらの贅沢な研究会となった。

研究会は、先ずブロックリーダーの吉田寛治先生より開催の挨拶とともに全国大会の御礼があり、また運営委員会の課題などに関する報告がなされた。

続いて行われた研究発表は、第1日目は北潟克輔先生、河野久子先生、第2日目は清水たま子先生、水口美知子先生のたくみな司会に導かれ、次の8研究の発表があった。

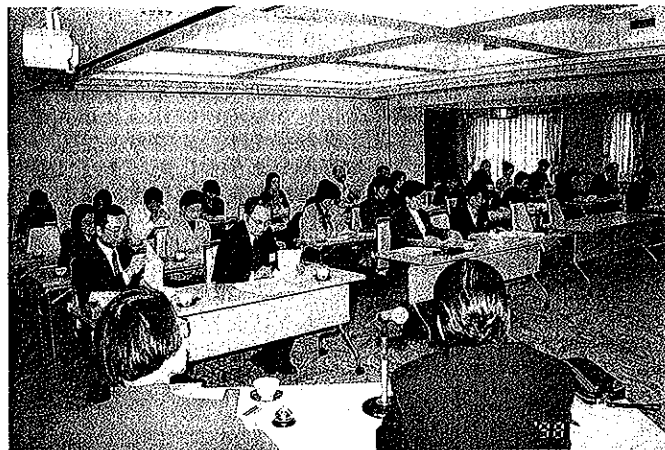
- ① 「ビジネス社会の精神側面における問題点とその対策の研究～ビジネス社会をとりまく環境からのアプローチ」 菱田陽子先生・野口喜美代先生
- ② 「資料収集学習と他領域への展開」 吉田由紀子先生

- ③ 「ビジネス教育のマルチメディア活用の変革～『情報処理』文部省の教育指導要項新設に向けて～」田口智子先生
- ④ 「資格の研究～ダブル・スクールからイン・スクールへ～」柴山 正先生
- ⑤ 「オフィスの敬語～問題点と実情に即した指導指針～」権田恵子先生
- ⑥ 「国際秘書教育と海外研修：研修プログラムの有効性」大津洋子先生
- ⑦ 「法律・制度にもとづいた仕事の進め方」鎌田和江先生
- ⑧ 「ビジネスワークとサービス労働」西川峰高先生

以上の発表に対して、補足説明を求める発言や課題・問題点に関して活発な質疑応答がなされた。これらの発表内容を見ると、従来の秘書学研究、秘書教育に限定されず広くビジネスの諸現象を研究対象に求めようとする積極的姿勢を感じる。そのことはひとり発表者だけでなく参加者の発言などにも顕著にみられた。これは当学会が「日本ビジネス実務学会」へと名称変更をしたことがもたらした効果のあらわれと考えられ、今後さらに研究領域の広がりや高度化が期待できるであろう。まさに同慶の至りである。

研究会は、サプリーダーの島名正英先生の閉会の挨拶と先の全国大会の御礼および報告をもって閉会した。

なお、研究会第一日目は、研究会終了後、同会館1階「友禅の間」に場を移して懇親会がもたれた。加賀料理の美味な味と器の美しさを堪能しながら、会員相互の旧交を温めたり、情報の交換、また研究発表者との質疑応答など有意義な



時間を共有することができた。

末筆ながら、とくに金沢学院大学の先生方には研究会の準備から当日の運営に至るまでさまざまなご尽力をいただいた。心から感謝の意を表したい。

また、ご参加の会員の方々はそれぞれのお立場で積極的なご協力をいただいた。お心遣いに対し御礼申しあげる。

(中村健壽記)

近畿ブロック

第24回研究会(平成9年3月20日)

第24回研究会は平成9年3月20日、41名の参加の元、大阪国際交流センターで開催されました。発表者は5名でした。

最初に大阪キリスト教短大の林雄太郎先生が「ビジネス学の確立理論研究(第1報)」と題して、ビジネス、経営学、経営管理論、経営学研究方法論、経営行動科学論の用語を中心に、ビジネス学の研究方法を、知的プロセス、学際的研究、システム科学及び組織論の活用などを通して考察され、ビジネス学の成立条件を提示されました。河原和英先生は「情報化・グローバル化する企業——業務のパーソナル化とグループ化の同時進行——」と題して、従来の相互依存から相互接続へ、EU・東アジア・北アメリカと三極化に向かう世界経済、情報通信技術のネットワーク化、更にその技術の特質と業務の姿容について考察されました。

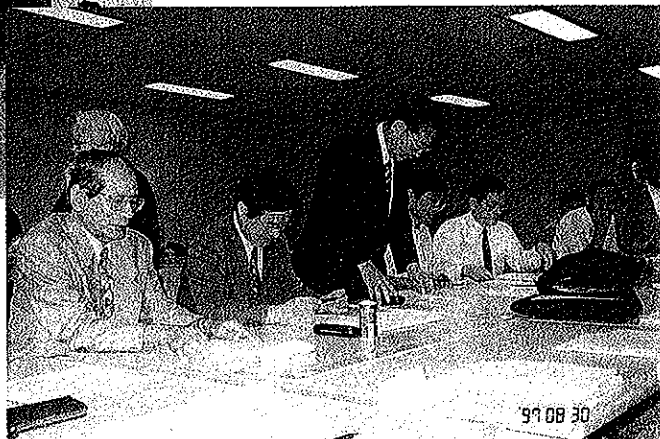
聖和大学短大部の黒田廣美先生は「女性と職業(性別役割分担について)」と題し、平成8年関西の女子短大生500名に行ったアンケートを元に、女性の就業継続に必要な取組、性別役割分担、今後の課題と分けて発表されました。秋に兵庫

県立女性センターでの成果が出つつある感じでした。

京都外国語大学の内間安彦先生は「レターキー導入の観点から——The 3009 Commonest Words Used in Adult Writingについて——」と題して、キーボード教育の現況を考察し、タイプの原因ともいえる3009語リストにもとって教育する必要性を説かれました。時間がなく最後まで伺えなかったのが残念でした。

大阪国際女子短大の油谷純子先生は「ビジネス実務教育の方向」と題して発表されました。日本のビジネス社会の変化とそれに伴う企業の対応、今後の働き方、組織・仕事への関わり方、企業の求める人材、企業の人材育成の方向とビジネス実務教育の方向について考察されました。

ティータイム後、福永ブロックリーダーが「オフィスと環境問題」と題して問題提起をされました。オフィスの環境問題は一つはオフィス古紙回収の問題、もう一つはコンピュータによる視力低下や肩こり、更に近年の電磁波といったオフィスが発生させる環境問題を提起され、今回は前者の問題、即ちオフィス町内会運動とその限界について考察され、「エ



コ・オフィス運動」へ展開していくことを提言されました。
第25回研究会(平成9年8月30日)

第25回研究会は平成9年8月30日、39名の参加をえて開催されました。緒方真澄先生(平安女学院短大)の司会のもと総会があり、福永弘之(兵庫県立短大)ブロックリーダーの平成8年度活動報告、会計報告を受け、武田寿子先生(神戸医療福祉専門学校)の監査報告がありました。また、全国大会担当校の大手前女子短大の福井有先生より状況報告を受けました。

研究発表は、まず近畿大学短大部の大窪久代先生が「新しいビジネスマナーを考える——電子コミュニケーションマナーを中心として——」と題し、グローバル化するオフィス環境の中で倫理を考える視点を提示されました。

河原和英先生は「情報化・グローバル化する企業——異文化コミュニケーションの三類型——」と題し、文化と人間との

関係から三つの異文化コミュニケーションを提示されました。

大手前女子短大の永井宏一先生は「ビジネス実務と人事異動」と題し、ビジネスをビジネス資源を生かす諸活動とし、今日の企業が他企業を巻き込んだ形で展開している状況から人事問題も個別企業だけでなく、関連企業を視野に入れた分析の重要性を論じられました。

大阪キリスト教短大の林雄太郎先生は「ビジネス学の理論研究(第2報)」と題し、ビジネス学の展開条件として、システム論導入等の必要性を示唆されました。

分科会は唐崎斉先生(滋賀女子短大)の司会のもと「ビジネス実務とマルチメディア」をテーマに、まずPL学園短大の足塚智志先生より提言を受け、二班に分かれて討議をしました。(河原和英記)

中国・四国ブロック

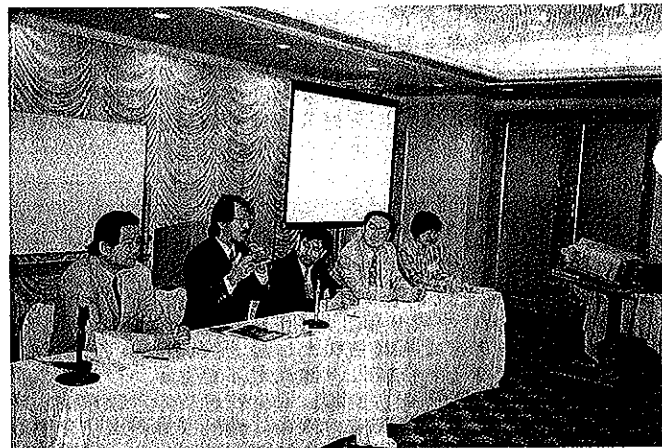
1. ブロックの運営動向

本年度は役員の改選が行われ、胡義博先生(鈴峯女子短期大学)に代わり、川瀬啓子先生(安田女子短期大学)が新しいサブ・リーダーに、また、新運営委員として川村郁夫先生(宇部短期大学)と林直樹先生(徳島文理大学短期大学部)がそれぞれ推薦され、承認がなされた。今年度から、新体制でブロック研究会の運営に当たることとなったが、長年にわたる、胡義博先生の功績に対し会員全員が謝意を表した。

今年度は、8月・10月・2月の計3回にわたって運営委員会をもち、次回全国大会の統一テーマの研究発表、役員の選出方法、ブロックの活性化、会員の拡大等々について検討を重ねた。

2. 研究活動

第14回ブロック研究会は、平成9年10月4日(土)13:00から5日(日)12:00までの両日にわたり、ホテルシルクプラザ(広島)を会場に、安田女子短期大学の川瀬啓子先生、島田留美子先生をはじめ関係の先生方のお世話により開催された。研究会は43名の参加者を得、1日目に9件、2日目には3件で、今回も計11件という数多くの研究発表がなされた。学会の新名称も定着し、研究発表の内容も、従前のように秘書にスポットをあてたものから、マルチメディアに関するもの、ビジネス基礎研究の視点によるものまで、幅広い領域からの研究発表となった。また、2日目には、次回全国大会統一テーマに因み「マルチメディアのビジネス教育への展開」と題して、篠原收先生(広島女学院大学)をコーディネーターに、中村寛志先生(瀬戸内短期大学)、戸田昭直先生(土佐女子短期大学)、吉田行宏先生(安田女子短期大学)、島田留美子先生(安田女子短期大学)の4名のパネリストによるシンポジウムがもたれた。それぞれの先生の異なる専門分野からのアプローチによる発表が、参加者の注目を集めた。



今回の研究会では、シンポジウムはもとより研究発表にも、パワーポイントなどを駆使したものが多く取り入れられ、ビジュアル・プレゼンテーションによる説得性の高さを目の当たりにした。

1日目のプログラム終了後、恒例となっている懇親会が開催された。懇親会では、研究発表に関する質問、研究、教育に関する意見交換はもとより、学生数の減少に関する厳しい話題等も飛び交うなど、有意義な時間を持つことができた。

なお、来年度のブロック研究会は、10月3日(土)・4日(日)の両日、林直樹先生(徳島文理大学短期大学部)と松永満佐子先生(四国大学短期大学部)を中心に徳島観光ホテルでの開催予定で準備が進められている。(渡辺和枝記)



九州・沖縄ブロック

1. ブロックの運営動向

本年度の運営委員会において第23回、第24回ブロック研究会の場所、日時、発表者等を決定し、またブロック会報の編集・発行等を行った。

第24回研究会開催時田中友幸ブロックリーダー(福岡女子短期大学主任教授)は病床にあったが、平成10年2月28日永眠された。ここに哀悼の意を表したい。

2. 研究会活動

— 第23回研究会 —

期 日：平成9年10月4日(土)、5日(日)

場 所：熊本市市民会館(熊本市桜町)

出席者：22名

研究発表(4日)

「ビジネス実務教育の理論と実践 その1」

発表者：北原 康司(佐賀女子短期大学)

司 会：中村美代子(純真女子短期大学)

「ビジネス実務能力に関する一考察」

発表者：田中 友幸(福岡女子短期大学)

司 会：花崎 正子(東筑紫短期大学)

「『ビジネス実務』研究へのアプローチについて」

発表者：坂本 一登(福岡女子短期大学)

司 会：野口 純子(プラスビュア)

「企業ビジョンとビジネス実務」

発表者：井上 善海(井上善開事務所)

司 会：田中美保子(熊本情報経理専門学校)

「外部委託と人材派遣」

発表者：光岡 延幸(福岡女子短期大学)

司 会：花田 博文(九州女学院短期大学)

「秘書職務の倫理に関する一考察」

発表者：白川美知子(中九州短期大学)

司 会：里屋 康子(大分県立芸術文化短期大学)

「ビジネス実務の教育に関する一考察」

発表者：増田 卓司(九州共立大学)

司 会：浅岡 柚美(中村学園短期大学)



分科会(5日)

出席者の研究領域についてのグループ討議

— 第24回研究会 —

期 日：平成10年2月14日(土)、15日(日)

場 所：天神幸ビル(福岡市中央区)

福岡市民会館(福岡市中央区)

出席者：29名

研究発表(14日)

「日本型経営における経理概念」

発表者：増田 卓司(九州共立大学)

司 会：里屋 康子(大分県立芸術文化短期大学)

「情報化とオフィス労働について」

発表者：木原スミ子(九州龍谷短期大学)

司 会：浅岡柚美(中村学園短期大学)

「企業ビジョンとビジネス実務：実証編」

発表者：井上 善海(井上善開事務所)

司 会：中村美代子(純真女子短期大学)

「ビジネス実務教育の理論と実践 その2」

発表者：北原 康司(佐賀女子短期大学)

司 会：田中美保子(熊本情報経理専門学校)

「経営環境の変化と人的資源活用戦略」

発表者：藤村やよい(福岡女子短期大学)

司 会：野口 純子(プラスビュア)

「組織活性化とビジネス実務」

発表者：藤屋 伸二(藤屋伸二事務所)

司 会：弓削 忠史(九州共立大学)

「日本企業における人事戦略」

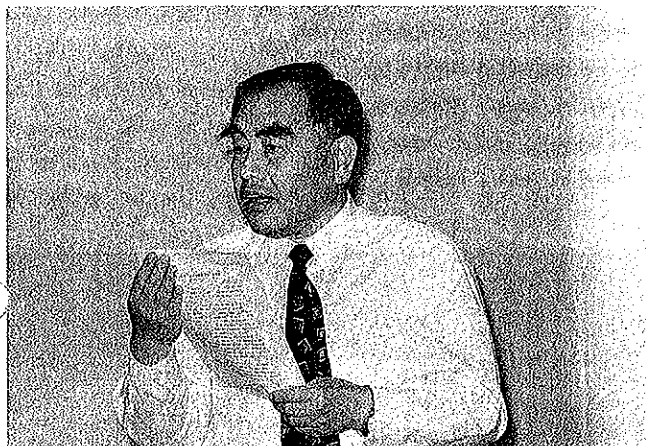
発表者：杉原 英夫(九州共立大学)

司 会：福田 靖(中村学園短期大学)

分科会(15日)

秘書、ビジネス実務、森脇論文についてのグループ討議。

日本秘書学会から「日本ビジネス実務学会」に改称されたことにより研究対象領域が拡充された。そのことにより、上記研究会記録のとおり研究発表の内容が多様化し出席者も前年度と同様多くなった。(坂本一登記)



平成9年度ブロックリーダー・サブリーダーおよび運営委員

◎(リーダー) ○(サブリーダー)

【北海道】

- ◎北 崎 寛(札幌国際大学短期大学部)
- 和 田 佳 子(国学院短期大学)
- 乳 井 克 憲(札幌国際大学短期大学部)
- 中 川 昌 代(道都大学短期大学部)
- 松 井 弘 典(北海道女子大学短期大学部)
- 丹 治 和 典(札幌国際大学短期大学部)

【関東・東北】

- ◎森 脇 道 子(産能短期大学)
- 佐 藤 啓 子(常磐大学短期大学部)
- 堀 江 光 光(城西大学女子短期大学部)
- 澤 野 恒 男(尚綱女学院短期大学)
- 天 大 風 登(高崎経済大学)
- 丹 野 修 子(産能短期大学)
- 佐 藤 東九男(東京工芸大学女子短期大学部)
- 高 井 由喜雄(財団法人実務技能検定協会)
- 田 辺 稔(福島女子短期大学)
- 中 佐 古 男(十文字学園女子短期大学)

- 畑 藤 三 矢 渡
- 中 田 本 村 沢 辺
- 国 利 幹 善 國 裕
- 明 久(川口短期大学)
- 子(千葉経済短期大学)
- 美 子(東京経営短期大学)
- 子(津田スクール・オブ・ビジネス)
- 一(産能短期大学)

【中部(東海・北陸)】

- ◎吉 田 寛 治(金沢学院大学)
- 鳥 正 英(愛知女子短期大学)
- 島 村 健 壽(静岡県立大学短期大学部)
- 中 明 純 澄(浜松短期大学)
- 河 北 真 澄(岡崎短期大学)
- 野 崎 克 輔(金城短期大学)
- 河 野 久 子(仁愛女子短期大学)
- 佐 々 木 怜 子(愛知学泉女子短期大学)
- 島 崎 みどり(東邦学園短期大学)
- 清 水 たま子(江南女子短期大学)
- 柴 山 正 正(名古屋女子大学短期大学部)
- 野 喜美代(富山コンピュータ専門学校)
- 水 口 美和子(市村学園短期大学)

【近畿】

- ◎福 永 弘 之(兵庫県立姫路短期大学)
- 緒 方 真 澄(平安女学院短期大学)

- 唐 崎 齊(滋賀女子短期大学)
- 武 田 将 子(神戸医療福祉専門学校)
- 小 原 温 子(奈良佐保女学院短期大学)
- 森 園 子(樟蔭女子短期大学)

【中国・四国】

- ◎森 貞 二(松山東雲短期大学)
- 三 宅 排 三(香川短期大学)
- 川 瀬 啓 子(安田女子短期大学)
- 篠 原 収(広島女学院大学)
- 川 村 郁 夫(宇部短期大学)
- 林 直 樹(徳島文理大学短期大学部)
- 渡 辺 和 枝(松山東雲短期大学)
- 西 川 三恵子(土佐女子短期大学)

【九州・沖縄】

- ◎田 中 友 幸(福岡女子短期大学)
- 北 原 康 司(佐賀女子短期大学)
- 光 岡 延 幸(福岡女子短期大学)
- 坂 本 一 登(福岡女子短期大学)
- 飯 本 廣 一(東筑紫短期大学)
- 花 崎 正 子(東筑紫短期大学)

ブロック研究会での研究発表一覧

【北海道】

- 「ビジネス実務教育のあり方についての一考察」
白川 智洋 (札幌国際大学短期大学部)
「インターンシップをいかにとらえるか」
佐々木邦子 (国学院短期大学)
「実務教育の展開と教育担当者の新しい役割」
北崎 寛 (札幌国際大学短期大学部)
「イギリス Solihull College の実務教育」
丹治 和典 (札幌国際大学短期大学部)

【関東・東北】

- 「レディ教育としての秘書実務教育」
三原 園子 (東京工芸大学女子短期大学部)
「ビジネス実務における生活技術の応用」
古閑 博美 (嘉悦女子短期大学)
「観光業界で求められるビジネス実務能力」
岩田 隆一 (産能短期大学)
「若者 (短大学生) の色彩感覚に関する実態調査」
伊藤久美子 (常盤大学短期大学部)
「ビジネスカリキュラムにおける倫理 (観) 教育の試み」
小川 厚子 (産能短期大学)
「新時代に期待される女性ワーカールーム — ビジネス環境と求められる実務能力の変化を中心として —」
武田 秀子 (高崎商科短期大学)
大宮 智江 (高崎商科短期大学)
岡田小夜子 (高崎商科短期大学)

【中部 (北陸・東海)】

- 「ビジネス社会の精神側面における問題点とその対策の研究 — ビジネス社会をとりまく環境からのアプローチ —」
森田 陽子 (北陸学院短期大学)
野口喜美代 (富山コンピュータ専門学校)
「資料収集学習と他領域への展開」
吉田由紀子 (名古屋聖徳短期大学)
「ビジネス教育のマルチメディア活用の変革 — 『情報処理』文部省の教育指導要項新設に向けて —」
田口 智子 (東海産業短期大学)
「資格の研究 — ダブル・スクールからイン・スクールへ —」
柴山 正 (名古屋女子大学短期大学部)
「オフィスの敬語 — 問題点と実情に即した指導指針 —」
樺田 恵子 (名古屋女子商科短期大学)
「国際秘書教育と海外研修: 研修プログラムの有効性」
大津 洋子 (愛知女子短期大学)
「法律・制度にもとづいた仕事の進め方」
鎌田 和江 (愛知女子短期大学)
「ビジネスワークとサービス労働」
西川 峰高 (金沢学院大学)

【近畿】

- 「ビジネス学の確立理論研究 (第一報)」
林 雄太郎 (大阪キリスト教短期大学)
「情報化・グローバル化する企業 — 業務のパーソナル化とグループ化の同時進行 —」
河原 和英
「女性と職業 (性別役割分担について)」
黒田 広美 (聖和大学短期大学部)
「レターキー導入の観点から — The 3009 Commonest Words Used in Adult Writing について —」
内間 安彦 (京都外国語大学)
「ビジネス実務教育の方向」
油田 純子 (大阪国際女子短期大学)
「新しいビジネスマナーを考える — 電子コミュニケーションマナーを中心として —」
大塚 久代 (近畿大学短期大学部)

「情報化・グローバル化する企業 — 異文化コミュニケーションの三類型 —」
河原 和英

「ビジネス実務と人事異動」
永井 宏一 (大手前女子短期大学)
「ビジネス学の理論研究 (第二報)」
林 雄太郎 (大阪キリスト教短期大学)

【中国・四国】

- 「オフィスにおけるアンペイドワークの評価方法」
川瀬 啓子 (安田女子短期大学)
「秘書のコミュニケーションと対処行動 II」
川村 郁夫 (宇部短期大学)
「経営秘書学キーワード — Accountability, Business Practices, Corporate Governance & Disclosure —」
堀 正久 (四国大学短期大学部)
「ビジネス実務教育についての一考察 — 短期大学の充実に向けて —」
曾根 康仁 (瀬戸内短期大学)
「ビジネス実務学の対象と方法」
村上 哲大 (土佐女子短期大学)
「ビジネス実務教育に関する企業実態調査 (V)」
水代 仁 (松山東雲短期大学)
桐木 陽子 (松山東雲短期大学)
森田 俊二 (松山東雲短期大学)
渡辺 和枝 (松山東雲短期大学)
「情報教育と情報リテラシー」
戸田 昭直 (土佐女子短期大学)
「マルチメディアとテクノロジー (パーソナルコミュニケーション) による組織構造の変化」
山本 慶子 (香川短期大学)
「マルチメディアに係わる著作権保護の問題点」
三宅 耕三 (香川短期大学)
「キャリア教育の可能性について — 短期大学の場合は —」
磯田 圭子 (安田女子短期大学)
「ビジネス教育と生涯教育」
樋口 紀子 (梅光女学院大学短期大学部)

【九州・沖縄】

- 「ビジネス実務教育の理論と実践 その1」
北原 康司 (佐賀女子短期大学)
「ビジネス実務能力に関する一考察」
田中 友幸 (福岡女子短期大学)
「『ビジネス実務』研究へのアプローチについて」
坂本 一登 (福岡女子短期大学)
「企業ビジョンとビジネス実務」
井上 善海 (井上啓開事務所)
「外部委託と人材派遣」
光岡 延幸 (福岡女子短期大学)
「秘書職務の倫理に関する一考察」
白川美知子 (中九州短期大学)
「ビジネス実務の教育に関する一考察」
増田 卓司 (九州共立大学)
「日本型経営における経理概念」
増田 卓司 (九州共立大学)
「情報化とオフィス労働について」
木原スミ子 (九州龍谷短期大学)
「企業ビジョンとビジネス実務: 実証編」
井上 善海 (井上啓開事務所)
「ビジネス実務教育の理論と実践 その2」
北原 康司 (佐賀女子短期大学)
「経営環境の変化と人的資源活用戦略」
藤村やよい (福岡女子短期大学)
「組織活性化とビジネス実務」
藤屋 伸二 (藤屋伸二事務所)
「日本企業における人事戦略」
杉原 英夫 (九州共立大学)

平成9年度入退会会員

(平成9年6月1日~平成10年3月31日)

【新入会員 (正会員)】

- 吉田 勝一 (山形県立産業技術短期大学校庄内校)
佐藤 佐代子 (常盤大学短期大学部)
伊藤 千代子 (大垣女子短期大学)
野末 英一 (秋田桂城短期大学)
北川 幸子 (龍谷大学)
里見 康子 (大分県立芸術文化短期大学)
山日 寛子 (群馬県立女子短期大学)
中川 洋子 (愛媛女子短期大学)
大谷 晴美 (熊本YMCA学院)
江利川 恵子 (産能大学)
安藤 正一 (群馬女子短期大学)
杉本 智枝子 (秋田短期大学)
加藤 明 (札幌国際大学)
丸山 恒子 (株式会社ソムラ)
増田 幸子 (インテリジェント・オフィス・システム)
木村 映子 (厚生電子ビジネス専門学校)
徳久 晶子 (厚生電子ビジネス専門学校)
三浦 富美枝 (福岡YMCA国際ホテル福祉専門学校)
中川 伸一 (岩国短期大学)
中原 功一郎 (岩国短期大学)
石井 みどり (群馬女子短期大学)
飯江 綾子 (四国学院大学短期大学部)
平尾 秀夫 (東邦学園短期大学)

【退会会員 (正会員)】

- 富田 佑子 (九州・沖縄)
芳賀 寛介 (中部・東海)

- 長瀬 修子 (近畿)
藤川 隆 (中部・北陸)
中井 秀英 (関東)
堀田 久子 (中部・北陸)
加島 節江 (九州・沖縄)
宇佐美 高子
加藤 ひとり (関東)
佐賀野 勝子 (九州・沖縄)
二宮 早苗 (関東)
北村 和繁 (近畿)
浅香 千鶴 (近畿)
佐野 四郎 (近畿)
間 敏幸 (関東)
坂山 祐次 (近畿)
三沢 仁 (関東)
田中 寛美代 (近畿)
利川 光範 (九州・沖縄)
吉野 勝一 (中部・東海)

- 渡 幸子 (中部)
長谷川 和夫 (近畿)
村中 順一 (北海道)
佐藤 昭雄 (九州・沖縄)
清川 正晃 (関東)
千瀬 浩 (中部)
大上 力 (四国)
小栗 毅夫 (関東)
田中 友幸 (九州・沖縄)
野村 裕子 (東海)
永井 幸雄 (東海)
井島 裕子 (関東)
【退会会員 (賛助会員)】
北海道立女子短期大学
山崎川女子短期大学
鹿児島短期大学
佐賀女子短期大学
佐野学園 (福岡県立大学)

【訃報】

三沢 仁 先生 (名誉顧問、前会長)

平成10年1月28日逝去

田中 友幸 先生

(理事、九州・沖縄ブロックリーダー)

平成10年2月28日逝去

心よりご冥福をお祈りいたします。